

一般社団法人日本看護研究学会 第22回九州・沖縄地方会学術集会開催概要 メインテーマ:地域に向けた看護の発信 —いのちと暮らしを支える—

このたび日本看護研究学会第22回九州・沖縄地方学術集会を佐賀で開催することになりましたので、ご案内申し上げます。

今回のメインテーマは、「地域に向けた看護の発信—いのちと暮らしを支える—」と致しました。超少子・超高齢・多死社会の中、地域で生活する人々のいのちと暮らしを支える“看護”の役割や魅力、新たな看護の可能性を考えることができる学術集会にしたいと考えております。

特別講演では、「いのちをまもり、暮らしをつむぐ看護の創造」のテーマで、村嶋幸代先生（大分県立看護科学大学 学長）にご講演頂く予定です。

会員の皆様をはじめ、多くの方々にご参加頂きますよう企画委員一同お待ちしております。

第22回 日本看護研究学会九州・沖縄地方会
学術集会長 田淵 康子

- 日時：2017年11月4日（土）9：00～16：00
- 会場：佐賀大学医学部看護学科棟（鍋島キャンパス）
- プログラム

時間	内容
8：30～	受付
9：00	開会
9：05～9：15	学術集会会長 挨拶
9：20～10：20	特別講演 「いのちをまもり、暮らしをつむぐ看護の創造」 講師：村嶋 幸代 先生（大分県立看護科学大学 学長）
10：30～11：00	ウェルカムレセプション：看護学生による音の彩り
11：10～11：40	総会
11：50～12：50	ランチョンセミナー 「在宅での看取り—患者や家族とともに死生観を育む」 講師：五十嵐 雄道 先生（円光寺住職）
13：00～14：50	一般演題
15：00～16：00	交流集会 「自分らしい暮らしを支える地域の力」
16：00	閉会

- 一般演題募集期間：2017年6月12日（月）～7月24日（月）
- 事前参加登録期間：2017年6月12日（月）～9月29日（金）
- 学会ホームページ：http://www.nksnet.co.jp/jsnr-kyu22/
- 学術集会参加費

	事前参加申し込み	当日参加申し込み
会 員	3,500円	4,000円
非 会 員	4,000円	4,500円
学 生	大学院生 1,000円（抄録代含）、学部学生無料（抄録代別）	

* 交流集会のみの参加には会員・非会員問わず、事前参加申し込みが必要です。
参加費1,000円を当日お支払いください。

■学会事務局：佐賀大学医学部看護学科 生涯発達看護学
〒849-8501 佐賀市鍋島5丁目1番地1号
TEL：0952-34-2549 FAX：0952-34-2547

日本看護研究学会九州・沖縄地方会

日本看護研究学会
九州・沖縄地方会事務局

九州大学大学院医学研究院保健学部門
潮 みゆき

〒811-8582

福岡市東区馬出3丁目1-1

Tel&Fax(092)642-6747

e-mail:m-ushio@hs.med.kyushu-u.ac.jp

ニュースレター

2017年7月

会員の皆様へ

一般社団法人 日本看護研究学会
九州・沖縄地方会会長 藤田 君支

18歳人口が減少する中で、看護系大学の増設が毎年続いています。平成29年4月現在で257校、入学定員はおよそ22,500人となり、わずか30年の間に25倍と看護学士教育の量的拡大が進んでいます。急増の背景には、就職率の高さや資格取得に加え、文系選択履修者でも受験できるため志願者が多いことが理由として挙げられますが、大学で看護を学びたいと希望する人が増えることは優秀な人材を確保する上でとても喜ばしいことです。一方で、看護職が魅力ある専門職とみなされるためには、質的な充実も不可欠となります。余談ですが、伝統ある文系私立大学でも看護学科の増設が相次ぎ、教員間の文化の違いや臨地実習で指導者の気苦労が絶えないという話を聞き、学生の裾野の広さを感じます。

研究で看護実践の効果を検証し、改善に向けた方策を探求することは、看護の質保証において極めて重要なことです。超高齢社会の日本では医療福祉財源は逼迫しており、看護技術の診療報酬化や役割の拡大を社会に認めてもらうには客観的な成果が求められますし、説明責任があります。しかし、看護研

究においてはエビデンスレベルの高いランダム化比較試験やシステマティックレビューが非常に少なく、看護の成果として明示することが課題となっています。

看護研究では人を対象とすることが多いため、実施において倫理的な問題に直面し、サンプリングが難しい、ケアの反応を指標で測定しにくいといった現実的な問題はありますが、看護学の発展のために多様な人材を活用して知恵を絞っていきましょう。看護系大学では博士課程も89校と増え、学際的な研究を企画運営できる若手研究者の育成も進んでいますので、看護学の未来は明るいものと期待しています。

本学会では日本看護研究学会雑誌を全てオープンアクセスジャーナル化し、J-STAGEでWeb上での無料公開が決まりました。会員以外の他分野の研究者や一般の方が研究論文を閲覧できるため、看護研究の発信を進める一歩となることと思います。



～～* 事務局より *～*～*

- 2017年に入りオランダ、フランス、韓国と相次いで世界で総選挙が行われました。激化するテロや紛争などの緊迫した問題もあり、各国のリーダーの選出には、国民の思いが確実に反映されているように感じます。リーダーに期待するだけでなく、私たち自身がどのような社会を作っていくべきかを改めて考えていく必要性を感じるところです。
さて本地方会も、今年度は役員選挙の年です。平成30年度からの新役員の選出が始まります。本地方会の更なる発展に向け、会員の皆様の期待を込めて、選挙への参加をお願い申し上げます。
- 2年間の事務局の活動の1つとして、ホームページの記事の整理を行いました。かねてから課題であったニュースレター送付に関わる費用削減のため、ニュースレターをホームページ上で掲載しました。現在のところ、完全なWeb移行にはまだ課題があり、紙媒体で本紙を送付させていただいておりますが、Web掲載により、ホームページからいつでもニュースレターへアクセスできるようになりました。現在は11月に佐賀で行われる第22回学術集会の情報について、ホームページ上で随時情報を更新しています。ぜひホームページ情報をご覧ください。

日本看護研究学会九州・沖縄地方会役員選挙についてのお知らせ

一般社団法人 日本看護研究学会九州・沖縄地方会 役員選挙管理委員会
委員長 田中 美智子

昨年のニューズレターでもお知らせしましたが、平成26年に一般社団法人日本看護研究学会九州・沖縄地方会会則が改正されました。その際、役員任期は、平成27年4月1日～平成30年3月31日で、現在も継続中です。平成30年4月以降の新役員にバトンタッチするために、今年度、九州・沖縄地方会の役員（平成30年4月1日～平成33年3月31日任期）選挙を行う予定です。

選挙の公示は6月末、投票期間は7月21日～8月18日、オンライン選挙システムを用いてWeb選挙を行います。当委員会では会員の皆様の声が届く選挙が行えるよう、準備を進めて参りました。選挙の際には必ず投票を行っていただきますようお願い申し上げます。3月で職場が変わられた方、また、まだアドレスを登録していない方は<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/JSNR>にて手続きをお願いいたします。なお、選挙結果は、11月の総会時にご報告させていただきます。地方会会員の皆様のご協力を賜りますようお願いいたします。

理事会だより～日本看護研究学会の発展に向けて～

一般社団法人 日本看護研究学会
理事 前田 ひとみ

新年度が本格的に動きだし、会員の皆様には活気に満ちた日々をお過ごしのことと思います。

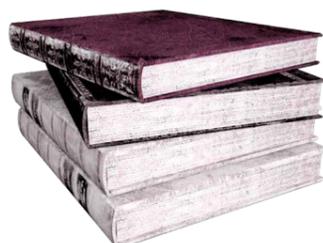
日本看護研究学会は1975年に開催された第1回四大学看護学研究会に端を発しています。当時は、看護系の学会はほとんどありませんでしたが、時代の流れとともに看護学の専門分化が進み、現在はたくさんの学会が設立されています。本学会の特徴として、看護学を狭い範囲でとらえるのではなく、学問の壁を越えて、多数の他学問領域の研究者や実践者の方々と対話を通して、看護学の発展に寄与してきたことが挙げられます。このような背景を土台にして、理事会では広く様々な看護分野を含む本学会が看護学の発展に向けて、今後、どのような独自性を発揮できるのかを議論しているところです。

会員サービスのひとつとして、5月にはホームページがリニューアルされました。学会誌に掲載された論文が検索しやすいように、J-Stageのバナーが追加されています。これまでに蓄えられた知を検索できるよう、四大学看護学研究会誌まで遡り、全ての論文のJ-Stageへの登録作業を進めているところです。また、昨年からは、英論文の投稿も可能になりました。

もうひとつの本学会の特徴としては、全国を5ブロックに分けた地方会活動が活発であることが挙げられます。九州・沖縄地区でも毎年、学術集会を開催しております。理事会では更なる地方会の活性化を図るために、地方会への助成金を増やすことも検討中です。

最後に、私ごとで恐縮ですが、平成30年8月18日19日に熊本県立劇場で第44回学術集会を開催させていただきます。現在、主要プログラムについて検討中です。興味深い企画などがありましたら、是非、ご一報ください。年明けには演題募集を開始する予定にしておりますので、演題登録いただけますよう、よろしくお願いいたします。

末筆ながら、会員の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。



一般社団法人日本看護研究学会 第21回九州・沖縄地方会 学術集会を終えて

一般社団法人日本看護研究学会 第21回九州・沖縄地方会
学術集会長 栗原 保子

日本看護研究学会第21回九州・沖縄地方会学術集会を、「実践と研究の有機的連動－看護の知の創出をめざして－」のテーマのもと、平成28年11月12日に宮崎県立看護大学において開催し、無事に終了することができました。これも皆様のご支援・ご協力のおかげと感謝いたしております。この場をお借りして改めて御礼申し上げますとともに、学術集会のご報告をさせていただきます。

宮崎での開催が7年ぶり、本学での開催は16年ぶりでした。1人でも多くの方が参加され、宮崎の良さを再発見していただけるような企画になればと考え進めてまいりました。学術集会開催日が、あいにく県内中核病院の防災訓練等と重なり、集客数について心配しておりましたが、会員・非会員の皆様、そして学生参加を含め、170名のご参加をいただき充実した学術集会となりました。

午前中の特別講演では、Rogersの概念モデルを基盤としたニューマンの看護理論を前提に、ミューチュアル・アクションリサーチを用いた看護の概念化を追究されている遠藤恵美子先生（武蔵野大学名誉教授 NPO法人ニューマン理論・研究・実践研究会理事長）に、「看護実践と研究を紡ぐアクションリサーチ－その考え方と技法－」というタイトルでご講演いただきました。事例を活用して研究過程を丁寧に説明していただきましたので、看護理論を実践に適用していくことの面白さと同時に、看護の価値を可視化していくことの重要性について皆様に実感していただけたように思います。

ランチセミナーでは、農業・観光立県である宮崎県の特徴を活かし、「食と健康」という観点から、「インナービューティー～身体の内からつくる健康と美～」「古代日本人と食事～日向神話を中心



として～」のタイトルで、フードアナリストの竹井倫世先生、本学教授で日本文学専攻の大館真晴先生に、セッション形式で講演していただきました。地産地消にこだわった食事に加え、日本人の食文化にまつわる講演内容でしたので、会場は大いに盛り上がり、参加者の皆様にはリラックスしていただけたのではないかと思います。

午後の教育講演では、研究には不可欠な倫理について、岩江荘介先生（宮崎大学医学部社会医学講座研究倫理支援分野准教授）に、「看護研究における倫理を問う」というテーマで講演していただきました。看護研究を実施する上で、我々が知っておくべきこと、また注意しておきたい研究倫理上のポイントを実務の視点から丁寧にわかりやすく講演していただきました。講演後も、今現場で遭遇している問題について何らかの解決の糸口を見出したい参加者の方々が先生を囲み相談されるなど、この企画も大変好評でした。

その後、一般演題として、口演10題、示説18題の発表があり、活発な意見交換が行われました。参加者の皆様にとっては多くの示唆を得る機会になったようです。

最後になりましたが、ご多忙な中ご参加いただきました皆さま、査読や座長の任をお引き受けいただきました先生方、本学術集会にご協力いただきました企画・実行委員の皆さま、運営にあたって協力いただきました学生ボランティアの皆さま、本学術集会にご広告やご寄付の協賛支援をいただきました企業団体の皆さま方に、心から感謝と御礼を申し上げます。

本地方会が、看護学の知の発展と看護実践力及び質の向上に貢献できることを祈念し、本学術集会を無事終了できたことに心より感謝申し上げます。

